

溝口芸術を支えた伝説の映画美術監督、水谷浩の人と仕事



写真：「楊貴妃」スナップ。前列左から溝口健二、水谷浩。

Pioneering Art Director: Hiroshi Mizutani at his Centenary

生誕100周年記念

美術監督

# 水谷浩 の仕事

2006年4月4日(火)―9月24日(日)

東京国立近代美術館フィルムセンター展示室 [7階]

\*月曜日および5月29日(月)―6月5日(月)は休室

開室時間：午前11時―午後6時30分(入場は午後6時まで)

料金：一般200円(100円)/大学生・シニア70円(40円)/高校生40円(20円)

\*料金は常設の「展覧会 映画遺産」の入場料を含みます。

\* ( )内は20名以上の団体料金です。小・中学生は無料です。

\*フィルムセンターの企画上映をご覧になった方は当日に限り、半券のご提示により団体料金が適用されます。

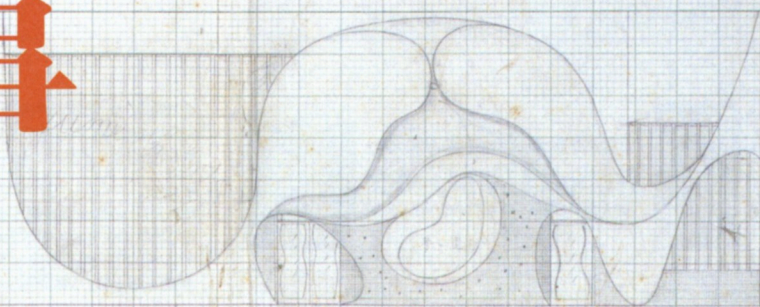
\*シニア(65歳以上)の方は、必ず年齢を証明できるものをご提示ください。

主催：東京国立近代美術館フィルムセンター

デザイン：「赤線地帯」(1956年、溝口健二監督)

N 東京国立近代美術館フィルムセンター  
F National Film Center  
C The National Museum of Modern Art, Tokyo

東京国立近代美術館ホームページ <http://www.momat.go.jp/>





生誕100周年記念

## 美術監督 水谷浩の仕事



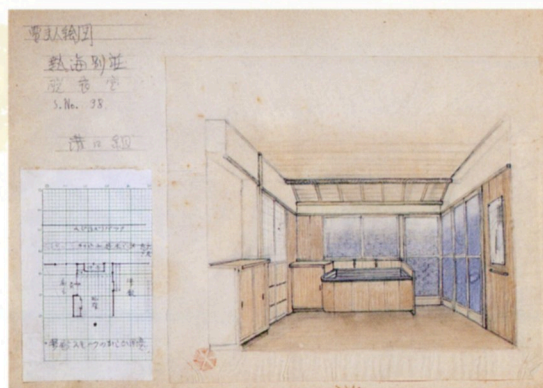
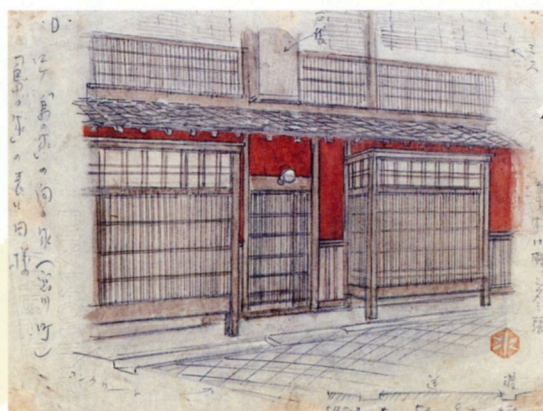
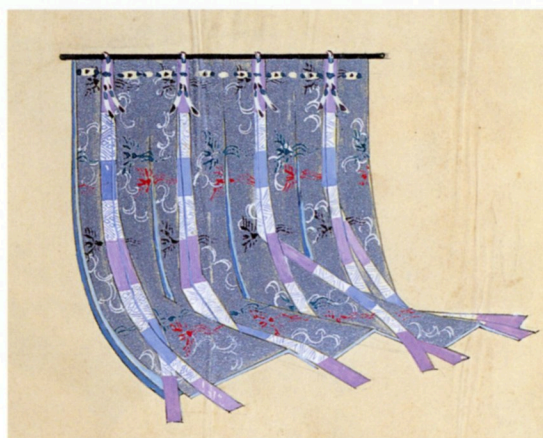
水谷浩(1906-71)は、東京美術学校(現在の東京芸術大学)に在学中の1927年、松竹キネマ蒲田撮影所に入社して映画界への第一歩を踏み出しました。当時の所属は「大道具課装置係」、担当作品には牛原虚彦、豊田四郎、小津安二郎の他、清水宏や斎藤寅次郎の無声映画も含まれていたと言われています。その後、帝キネ、新興キネマへと活動の場を移しながら「祇園祭」をはじめとする溝

口健二作品、「霧笛」など村田実作品での仕事が注目を集め、溝口とともに招かれた松竹下加茂では「残菊物語」「浪花女」「芸道一代男」(いわゆる「芸道三部作」)で明治もの美術を極めます。また、1941年の「元禄忠臣蔵」では松の廊下を初めて原寸大で再現する一方、史実の中にも自在なデフォルメを加え、映画における「美術監督」の存在感を不動のものとししました。そして戦後の「西鶴一代女」「近松物語」などで、国際的にも高まりを見せる《溝口芸術》の評価に多大な貢献をなしたことは、あらためて繰り返すまでもありません。

本展は、水谷浩の生誕100周年を記念して開かれるものであり、同美術監督に関する展覧会としては国内初の本格的な催しとなります。ここでは、フィルムセンターに寄贈されたデザイン画や遺品などを通して、パイオニアの足跡と映画における美術の仕事を概観するとともに、晩年の水谷が情熱を注いだ影絵映画などの知られざる構想にも照明を当てます。



- ① 写真: 水谷浩(中央)。新興キネマ美術部長当時のもの。
- ② デザイン: 「楊貴妃」(1955年、溝口健二監督)
- ③ タイトル・デザイン: 「鶴八鶴次郎」(1956年、大曾根辰保監督)
- ④ デザイン: 「源氏物語」(1951年、吉村公三郎監督)
- ⑤ デザイン: 「偽れる盛装」(1951年、吉村公三郎監督)
- ⑥ デザイン: 「雪夫人絵図」(1950年、溝口健二監督)



### 関連企画上映

東京国立近代美術館フィルムセンター小ホール(地下1階)  
**美術監督 水谷浩特集(仮題)** 展覧会の会期後半の9月に水谷浩関連作品の上映を予定しています。  
 東京国立近代美術館フィルムセンター大ホール(2階)  
**没後50年 溝口健二再発見** 10月31日(火)~11月16日(木)、11月28日(火)~12月27日(水)  
 \*詳細はチラシ、ホームページで発表します。



〒104-0031 東京都中央区京橋 3-7-6  
 お問い合わせ: ハローダイヤル 03-5777-8600  
 東京国立近代美術館ホームページ <http://www.momat.go.jp/>

### ▼交通

東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分  
 都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分  
 東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分  
 JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

